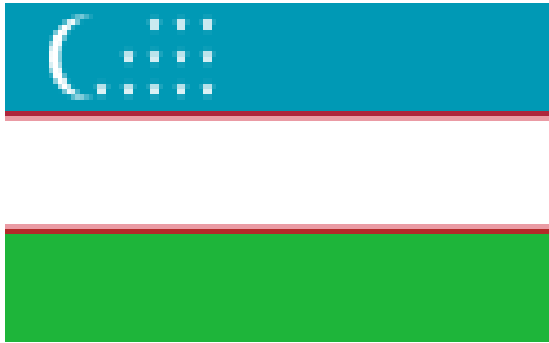


# ウズベキスタン共和国



## 【国旗】

上の青色の帯は青天と純水  
中の白色は平和と純粋さ  
下の緑色は天恵の自然  
各色の間の赤色の細は生命力  
青色の帯には、晴天を象徴する三日月と12個の星  
三日月はウズベク人の伝統  
12は完全性を示す数字

## 【国章】

国旗の色である青、白、緑を多用  
左側を取囲むのは綿花、右側は小麦  
頂上の青い星はイスラム教を象徴  
その中には、三日月と星のシンボル  
中央の鳥「フモ」（伝説上の鳥）は幸福と自由への愛を象徴  
鳥の背後に国土が広がり、山脈から昇る朝日が光を放射  
流れる二つの川は、アムダリヤ川とシルダリア川

2017年7月  
前・駐ウズベキスタン特命全権大使  
加藤文彦

(2013年4月~2016年8月)

# 7つのポイント

## (1) 人口が多く、若い

中央アジア5か国（カトウタキ。いずれも1991年に独立）のうち、最大の3,200万人の人口（2016年）  
しかも、30歳以下の若者が過半数  
面積は日本の1.2倍

## (2) 緑豊かな地上

昔からシルクロードのオアシスの国 農耕定住民族  
アムダリア、シルダリアの2つの大きな川を有し、  
灌漑により、緑が多く、果物・野菜が豊富

## (3) 豊かな地下資源

ガス、金、ウランなど豊富 中国にもガスパイプラインを敷設

## (4) 安定した政治、治安

カリモフ前大統領が、独立以降25年間統治してきた  
治安・秩序を最優先し、国によるインフラ開発を行いつつ、  
経済の完全な自由化は少しずつ進める政策  
GDP 1人当たり2,100ドル（2015年）

## (5) 温厚・親切な国民性

国民性は、概して温厚・まじめ 他人に親切  
「マハッタ」という昔ながらの近所付き合い共同体が、現在も存続  
イスラム教だが、宗教は個人の判断（アルコール、豚肉も問題なし）

## (6) 親日的

戦後の日本人抑留者の業績を高く評価（例：ナボイ劇場）  
若者の日本語学習熱が高い（1,300~1,500名が学習）

## (7) 日本の技術への強い憧れ

日本企業・製品の高い技術に強い憧れ、尊敬の気持ち



カリモフ初代大統領  
(2016年9月逝去)



ミルジヨーエフ大統領  
(2016年12月就任)

# ウズベキスタン基礎情報

## 独立

1991年	独立（独立記念日；9月1日）
1992年	日本との外交関係樹立
1993年	在ウズベキスタン日本国大使館開設

## 国土

44.7万km<sup>2</sup>（日本の約1.2倍）  
約40%は都市や緑の農耕地域、残り60%砂漠・ステップ・準乾燥地  
世界に2カ国しかない「二重内陸国」（もう1カ国；リヒテンシュタイン）

## 人口

約3,200万人（2016年10月現在） 中央アジア5カ国で最大

## 民族構成（自己申告制）

ウズベク人（約80%）、タジク人（約4.9%）、ロシア人（約3.8%）、カザフ人（約3.6%）  
タタール人（約1.0%）、キルギス人（約0.9%）、朝鮮人（約0.6%）ほか

## 言語

ウズベク語（国の公用語）  
ロシア語（政府、企業幹部等で一般的に用いられ「実質的な公用語」の位置づけ  
他方、地方では、小中学校教育がウズベク語となってきたため、全く話せない者もいる）

## 宗教

イスラム教（スンニ派が優勢）、ロシア正教 ほか

## 地方行政区画

タシケント特別市、12の州及びカラカルパクスタン自治共和国から構成される  
※12の州：アンディジャン、フェルガナ、ナマンガン、タシケント、シルダリア、ジザク、サマルカンド、  
（東から）カシカダリヤ、スルハンダリア、ナボイ、ブハラ、ホレズム  
※カラカルパクスタン自治共和国：独自の公用語（カラカルパク語）・国旗・憲法・首相を有し、  
住民投票に基づきウズベキスタン共和国から脱退する権利あり。しかし、独自の  
予算・税・警察・軍隊はないため、実際はかなり従順

# ウズベキスタン基礎情報（主要都市）

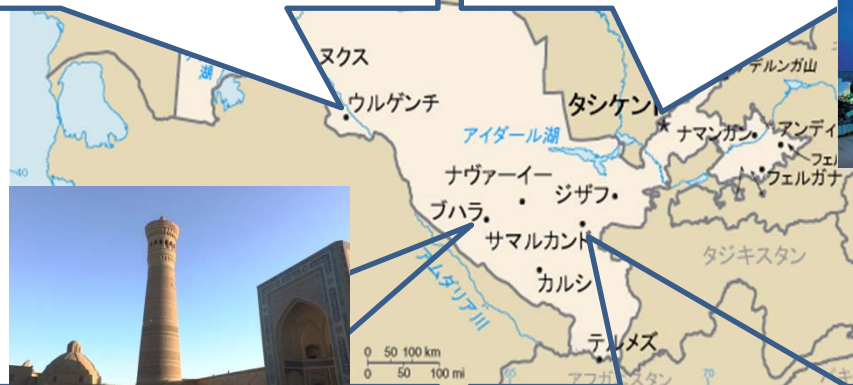
## ヒバ

ホレズム州第二の都市。ホレズムは、ペルシア語で「太陽の土地」という意味。この地域には、6千年前には既に集落が存在したことが確認されている。「ディシャン・カラ（＝外壁）（周囲約6km）」と、「イチャン・カラ（＝内壁）（同約2km）」の二重の城壁に囲まれ、現在、一般的にヒバと言うときは、この「イチャン・カラ」の内を指す  
1994年世界文化遺産登録



## タシケント

ウズベキスタンの首都  
「タシュ（石）ケント（都市）」と呼ばれたことに由来する。古くから、シルクロードのオアシス都市として発展  
旧ソ連時代は、モスクワ、キエフ、サントペテルブルグに次ぐ4番目の都市として栄え、地下鉄も作られた。中央アジアで最大の都市



## ブハラ

サーマン朝ペルシャ（9C～10C）の首都として繁栄  
地名はサンスクリット語の「ビハラー（僧院）」に由来すると言われる  
チンギスハン（13C）の襲来により一時灰燼と化すが、16Cに宗教的都市として再興し、今に姿を残す  
1993年世界文化遺産登録

## サマルカンド

2500年以上の歴史を刻み、古くから、シルクロードの最重要オアシスの一つ  
アレキサンダー大王（BC4C）、チンギスハン（13C）の襲来により破壊されたが、14C、ティムール帝国の首都として再建され、栄華を誇った  
多くの文化人等が美しさを称え、「青の都」「世界の真珠」等と称される。2001年世界文化遺産登録



# ウズベキスタン基礎情報（料理）

## 国民食「プロフ」、「ラグマン」

ウズベキスタン料理は、旧ソ連諸国の中でもとても美味、と定評

「プロフ」；肉、ニンジンやタマネギなどの野菜に、クミンなどの香辛料を加え、たっぷりの油で炊き込んだピラフ風炊き込みごはん。地方によって、レーズンやひよこ豆を入れることもあり、また具材・味付けに違いがある  
日常のみならず、結婚式などの祝祭料理としても振るまわれる  
なお、「プロフの文化及び伝統」は、2016年、ユネスコ無形文化遺産登録



「ラグマン」；手延べで作るうどんをトマトベースの油スープで食べる麺料理  
起源については諸説あり、中国の麺食文化がウイグルで現在の味付けに発展し、中央アジアに伝来したという説が有力  
コリアンダーなどのハーブを入れることもあり、独特の風味がある



ほかにも

「サムサ」 タンドールという釜で焼いた肉や玉ねぎの入ったパイ  
「シャシリク」肉の串焼き、などがある

## お茶の文化

伝統的にお茶の文化であり、中でも緑茶・紅茶は一日中飲まれる国民的な飲料  
チャイハナ（喫茶店）のタップチャンと呼ばれる縁台に座ってお茶を飲みながらの集まりは、地域コミュニティの拠点としても重要な役割を果たす

## アルコール

ロシア帝国及びソ連の支配が140年以上（190後半から1991年独立まで）と長かったこともあり、イスラム教徒であっても飲酒する者は多い。まず、ウオッカ。国産も多い。次に、ぶどうの一大産地で、国内に十数か所のワイナリーがあり、ワインやブランデーが生産・消費される（日照が強いためぶどう糖度が高く、多くは甘口）  
国産のビールも幅広く生産・消費されている

# ウズベキスタン基礎情報（工芸品）

## スザニ（刺繍を施した布）

スザニ；様々な色の糸を使って刺繍を施した布  
壁掛け、クッションカバー、ポーチ等の製品がある  
18C頃より、家族の安全や繁栄を願って母から娘に  
代々伝統として受け継がれてきた。特に結婚を控えた  
女性は、母親や親戚と共に、新しい家庭の幸せを願い、  
一針一針丹精込めて高精度な刺繍をあしらったスザニ  
を作ると言われる



## アトラス（絁模様のシルク）

アトラス；絁（かすり）模様の絹織物  
スカーフや服等の製品がある。ウズベキスタンでは  
養蚕と絹織物の伝統が残る。マルギランが特に有名  
（参考）JICAと東京農工大学が、シルク産業振興と  
女性の現金収入の向上・自立化を促すプロジェクト  
として、アトラスを使った小物類の手作りを指導を  
行ってきた。生産された製品は現在Cocoon（コクー  
ン：繭）というブランド名で販売されている



## 木工細工

彫刻の施された木製の名刺入れ、ペンケース、装飾用  
の皿等がある。材料はくるみが多い  
コーランを置く台は、何種類もの形に変化する



## 陶器

地方毎に色・柄が異なる等特色を持つ多様な皿、花  
瓶等が製作される。リシタン（青など）、ギジウド  
ウバン（黄色など）が特に有名



# ウズベキスタンの歴史①

## ティムール朝の栄光 (14C~15C)

- ・現在のウズベキスタンでは、アミール・ティムール (14C) は、歴史的栄光を体現する人物として称揚されている
- ・ティムールは、ウズベキスタンを中心に中央アジア南部、ペルシア、インド北西部、中東にまでまたがる広大な地を制服し、一大帝国を建設。チンギスハン・モンゴル帝国に破壊 (13C) された古都サマルカンドを都として再建し、現在も残るペルシア様式の壮大なモスク等を建設、ミニアチュール (細密画) などの文化・芸術が発達
- ・ティムールの孫の三代目君主ウルグベク (15C) は、自ら天体位置表や暦を作成するなど天文学者としても活躍。サマルカンドには、ウルグベクが使用した天文台が残っている。この天文台で計測した一年365日の長さは、現在の計測値とわずか1分ほどの誤差しかない
- ・ティムールの子孫のバブール (15C) は、インドに行って、ムガル帝国を築いた



ティムール朝最大版図 (14C)



サマルカンドのレジスタン  
広場



14 Cに描かれたとされるティムールの肖像 (左) は、風貌や服装などモンゴルの要素を示しているが、現在のウズベキスタンで流通しているティムールの想像図 (右) は、コーカソイドと混血した現在のウズベク人の風貌に合わせて描かれている



ティムール帝国の後、16C、北方遊牧民が南下、それが、現在のウズベク人の祖と言われる。その後、小国に分かれ、19C中頃、ロシア帝国支配に入る。1923年、ロシア革命後は、ソビエト連邦の一共和国。1991年、ソ連崩壊により、独立

# ウズベキスタンの歴史②

## シルクロードと仏教文化

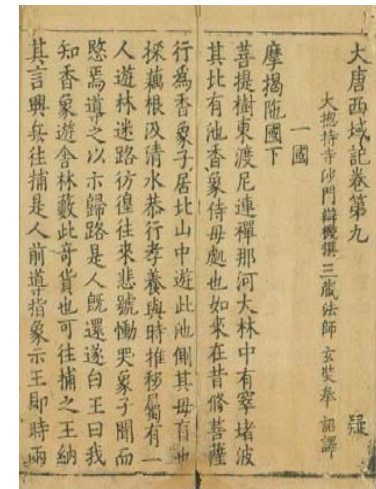
- ・古来より、ウズベキスタンは、シルクロードの要衝に位置し、東西文明や交易の交差点となってきた
- ・インドから伝来した仏教は、現在のウズベキスタン南部を支配していたギリシア・バクトリア王国（BC3 - 2C）以来のギリシア・ヘレニズム文化と融合し、仏像など仏教芸術が生み出された  
とりわけ、インドのカニシカ王（1C）の下でガンダーラ仏教美術が栄えたクシャーン朝時代、ウズベキスタンでも仏教僧院が繁栄し、その教えはシルクロードを経由し中国に伝えられた
- ・7C、インドに求法の旅に出た玄奘三蔵が通ったのもこの地である  
「西遊記」の元になった玄奘の旅行記「大唐西域記」には、「赭時国（石国）」（＝タシケント）や「颯秣建国（康国）」（＝サマルカンド）といった地名が登場する
- ・カラ・テパ遺跡は1Cのクシャーン朝カニシカ王時代に創建された仏教寺院群であり、ウズベキスタン南部のテルメズ市近郊にある  
ソ連の考古学者により調査が行われてきたが、1998年以降は、加藤九祚・国立民族学博物館・創価大学名誉教授が発掘作業の中心を担ってきた  
加藤氏は、ウズベキスタン小学5年生の教科書でも紹介されており、勲章も受章（2016年9月、テルメズ市において94歳で逝去）



クシャーン朝カラ・テパ遺跡の  
仏教僧院



故加藤九祚・国立民族学博物館  
名誉教授





# ウズベキスタンと日本の繋がり

## ウズベキスタンの日本人抑留者

- ・ 第二次世界大戦後、ソ連によって抑留された日本人のうち、約25,000人がウズベキスタンに移され、各地で強制労働に従事  
812名が故郷の地を踏むこと無く客死された
- ・ 抑留された日本人は、厳しい労働環境の下でも与えられた仕事に全力を尽くし、その姿は当時のウズベク市民に大きな感銘を与えた  
カリモフ前大統領も、幼少期にそうした日本人の真摯な姿を目にし、それが肯定的な日本観の原点となっているとしている
- ・ 国内には13カ所の日本人墓地があり、現地の管理者によって現在まで大切に維持・管理されている  
タシケント市内にも、共同墓地内に79名が眠る日本人墓地がある  
その近くに、ジャリル・スルタノフ氏が個人的に開設した「日本人抑留者資料館」がある  
スルタノフ氏は、1991年のウズベキスタン独立を機に、日本人ゆかりの収容所や墓地などの資料や証言を収集し、98年に私財を投じて同館を開館した。スルタノフ氏は、2015年度外務大臣表彰を授与され、2016年秋の外国人叙勲において旭日双光章を受章



## ナボイ劇場

- ・ タシケントの中心にそびえる「アリシェル・ナボイ名称オペラ・バレエ劇場（ナボイ劇場）」は、1947年に完成した775名収容の壮麗な建築で、日本人抑留者約500名がその建設に従事
- ・ 同劇場は、1966年のタシケント大地震で他の建物の多くが倒壊する中、びくともせずその堂々たる姿を保ち、日本人抑留者の仕事の確かさ、技術が改めて賞賛された
- ・ 劇場の外壁には、「1945年から1946年にかけて極東から強制移住された数百名の日本国民が、このアリシェル・ナボイ名称劇場の建設に参加し、その完成に貢献した」というプレートがはめ込まれている  
このプレートには当初、「日本人捕虜が…」と記載されていたが、カリモフ前大統領が「ウズベキスタンは日本と戦ったことはないし日本人を捕虜にしたこともない」と主張し「日本国民が…」に書き換えさせたものである



# 日本語教育

日本語学習者数≒1300～1500名／年

## 1. 6国立大学（日本語学習者数：2017年1月時点）

### （1）タシケント東洋学大学（220名）

※菅野怜子先生が、1991年ウズベキスタン独立以前から日本語普及に尽力  
2014年ウズベキスタン勲章を受章、  
2016年秋の叙勲において瑞宝双光章を受章

### （2）世界言語大学（209名）

### （3）世界経済外交大学（72名）

### （4）タシケント法科大学（名古屋大学日本法教育研究センター）（37名）

### （5）タシケント経済大学（40名）

### （6）サマルカンド外国語大学（186名）

## 2. その他機関

### （1）ウズベキスタン日本人材開発センター（日本センター；UJC）（205名）

### （2）のりこ学級（リシタン市）（45名※時期によって変動）

※のりこ学級は、1999年に大崎氏（1994年からエンジニアとしてウズベキスタンに赴任）の意思を引き継ぎ、日本語学校として開設された。同校の卒業生や日本人観光客などが、ボランティアで授業を実施  
2016年ウズベキスタン日本語弁論大会ではのりこ学級出場者が優勝（GIS大会2位）、2017年同大会では2位入賞を果たすなど好成績を収めている

### （3）言語センター（フェルガナ市）（96名）

### （4）タシケント東洋学大学の付属高校（リツエイ）



ウズベキスタン日本語弁論大会

## 日本語学習者のための主な行事

### 1. ウズベキスタン日本語弁論大会（3月）

各日本語教育機関より1～3名参加

優勝者は中央アジア大会→モスクワCIS大会へ進出

### 2. いろはかるた大会（2月：於大使公邸）

日本の伝統遊戯である「いろはかるた」を体験してもらい、日本語学習意欲向上を図っている

# 政治・外交・経済のポイント

## 政治

カリモフ大統領逝去(2016年9月。78歳)、12月選挙でミルジョーエフ新大統領、政権交代。新政権は幹部の人事異動中。平穏・混乱ない政権、良好な治安を維持できるか

## 外交

1. 中央アジア5か国間関係を改善していくか
2. ロシア、アジア（日本、中国、韓国）、米欧とのバランスの取れた友好関係を維持か

## 経済

1. 主な経済指標；以下、原則2015年の数字
  - GDP 660億ドル
    - 1人当たり 2,100ドル
  - 経済成長率 6.8%
  - 物価上昇率 9.8%
  - 貿易 輸出 129億ドル（うちガス50億ドル、サービス20億ドル、農産品15億ドル、綿花9億ドル）
    - 輸入 124億ドル（うち機械設備56億ドル）
  - 対外債務 約90億ドル
  - 外貨準備 約160億ドル

## 2. ガス等；外貨獲得のための最大の輸出品

### ○ガス

－埋蔵 約1.1兆m<sup>3</sup>（BP見積もり）

－生産 550～600億m<sup>3</sup>

内需400～450億m<sup>3</sup>

輸出100～200億m<sup>3</sup>（パイプラインで、中国・ロシアへ）

（注）中国へのパイプラインはトルクメニスタンと共用

（トルクメニスタンから300～500億m<sup>3</sup>、

ウズベキスタンからはまだ100億m<sup>3</sup>以下）

－生産の権益（PSA）、主にロシアルークオイルと中国CNPC

（ロシア・ガスプロムは撤退の方向）

（マレーシア・ペトロナスと南ア・サソールは撤退済み）

ガス田、主に南のカシカダリア州と西のカラカルパクスタン

－精製；主にロシアルークオイルと韓国グループ（現代、Kogas, ロッテ、サムソン等）

特に、2016年完成した、カラカルパクスタンのスルギルカス田のウスチュルト精製・化学

コンプレックスは、世界最大級のポリプロピレン、ポリエチレンプラント

（ウズベクネフチガスと韓国のKogas, ロッテ、サムソンとの合併）

○原油 生産約300万トン。内需が約450万トンのため、不足分をカザフスタンから輸入

○GTL ウズベキスタンの悲願

### 3. ビジネス環境

為替交換・外貨送金が不自由な状況を改善できるか

また、旧ソ連的な中央集権、計画経済的体制や許認可等の手続きを改善できるか

(注)世銀の『Doing Business 2016』ビジネス難易度ランキング87位

(2015年の141位から大幅上昇)

### 4. 韓国及び中国の進出

政府の経済協力（特に融資）と並行して、民間の貿易や企業の進出は著しい

	貿易(輸出入計)	進出企業数	在留人数
中国	50億ドル	650社	1,500人
韓国	17億ドル	530社	2,000人
日本	2億ドル	10社	126人

ロシア

44億ドル

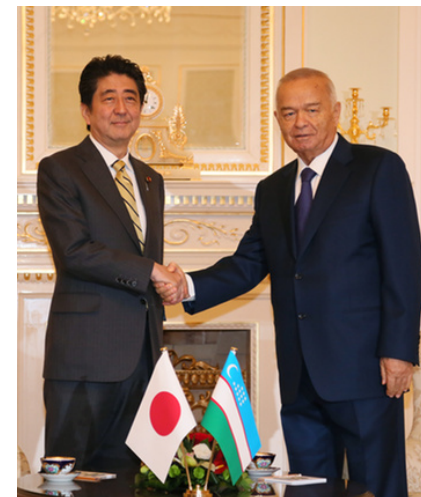
(2015年)

# 日本・ウズベキスタン関係（要人往来例①）

2014年 麻生太郎財務大臣一行、茂木敏光経済産業大臣・経済ミッションなど

## 2015年

- 1月 植田 NEDO理事（NEDOモデル事業普及セミナー10社）  
アジモフ 第一副首相兼財務大臣・訪日
- 2月 武藤 外務省中央アジア特別代表
- 3月 飯島勲 内閣参与（ウズベキスタン大統領選挙監視）  
青森県交流協会ミッション
- 4月 岩井 富岡市長  
門間 財務総合研究所長
- 5月 中山恭子、松沢成文、和田正宗 参院議員
- 6月 朝日・読売・共同などプレスミッション  
清水 日銀審議役
- 7月 藺浦健太郎 外務大臣政務官
- 8月 辻本 JOGMEC理事  
★旅行業（JATA、ANTA）ミッション、毎日・時事などプレスミッション
- 9月 ★官民インフラ会議（39社）  
（鈴木馨祐国土交通大臣政務官）
- 10月 ★ガニエフ対外経済大臣・訪日  
★安倍晋三 総理夫妻  
（世耕弘成官房副長官、長谷川栄一総理補佐官、飯島勲参与等）  
（杉山外務審議官、林欧州局長等）  
（松島農林水産審議官、上田経済産業審議官、森重国土交通審議官、門間財務省国際局長等）  
（中山恭子元大使）  
民間ミッション 38社・大学等（うち27人は社長・会長等トップ）（随員含め約300人）
- 11月 ★大学学長会議 20大学（学長・副学長・教授等約60人）  
（前川文部科学審議官）（松尾名古屋大学総長など）
- 12月 ★田中和徳、福田峰之、穴見陽一、木村弥生 衆院議員（自民党国際局）



# 日本・ウズベキスタン関係（要人往来例②）

## 2016年

- 1月 大学会議 渡辺名古屋大学副学長、ベントン筑波大学副学長等10人  
金井 国際交流基金（JF）映像事業部長  
北海道企業ミッション
- 3月★農業共同作業部会 約20社  
★加藤 JICA部長  
富永 財務総合研究所長
- 4月★山田美樹 外務大臣政務官  
日ウ経済合同会議 約60人  
（中原・日ウ経済委員会会長、横井・太田同副会長等）
- 5月★石田・本田財団理事長、川口順子・元外務大臣など  
（シンポジウム）  
アジズ・アブドゥハキモフ労働大臣・訪日  
ガニエフ対外経済大臣・訪日
- 6月★土屋 NEDO理事ミッション  
★長谷川榮一 総理補佐官
- 7月 大学会議 （渡辺名古屋大学副学長等）
- 8月★安倍昭恵総理夫人 和太鼓T A Oのナボイ劇場公演の特別顧問  
★文化ミッション （鳶・日ウ協会会長、コシノジュンコ、中山恭子・河東元大使、小松東京外大教授、安藤JF理事長など）
- 9月 滝沢求 外務大臣政務官（カリモフ前大統領告別式出席）
- 10月★第2回官民インフラ会議（18社）  
（花岡国土交通審議官）
- 12月★中山恭子参院議員、佐々木紀衆院議員、加藤  
（大統領選挙監視団）



和太鼓T A Oの  
ナボイ劇場公演  
（2016年8月）

# 日本・ウズベキスタン関係（ODA・経済①）

## （1）ODA（経済協力）

### ① 円借款；外務省・JICA

- ・ 2013年8月 ナボイ発電所Ⅱ近代化（約350億円）→2016年9月三菱商事・MHPS落札
- ・ 2014年11月 電力セクター・プロジェクト・ローン（約870億円）
  - i トウラクルガン発電所新設 →2016年10月三菱商事・MHPS落札
  - ★ii タシケントに熱電併給の高効率設備2基新設
  - iii トレーニングセンター用機材や既設発電所保守点検用機材等の能力強化
- ・ 2015年1月 アムブハラ灌漑施設リハビリ計画（約120億円）

### ② 無償・技術協力；外務省・JICA

- ★ノンプロジェクト無償資金協力による医療器材（MRI）供与（5億円）
- ★一般無償資金協力によるナボイ州総合医療センターへの医療器材供与（約6.8億円）
- ・ これまでシルク生産技術指導（東京農工大）等
- ★2015年より、電力運用保守トレーニングセンター設置し、技術協力開始
- ・ 2015年より、弘前大学等がタシケント・サマルカンドで高品質リンゴ（ふじ）の技術指導開始
- ・ 現在40人以上の青年海外協力隊（JV）・シニアボランティア（SV）が地方を含めて献身的協力活動を継続

### ③無償・技術協力；JOGMEC・NEDO

- ・ JOGMEC：
  - 2013年～ 砂岩型ウラン共同探査実施
  - 2013年～ レアメタル共同探査実施
  - ★2015年～ 石油・ガス共同探査実施
- ・ NEDO：
  - 2013年8月 タシケント熱電併給の高効率設備モデルプラント完成（日立）
  - ★2015年～ フェルガナ熱電併給の高効率設備モデルプラントF/S開始
  - 2016年10月 MOU締結
  - 2017年4月～ プラント建設開始（川崎重工）



# 日本・ウズベキスタン関係（ODA・経済②）

## ④ 草の根無償

病院への医療機材供与、小学校への机・椅子・教育機材供与等を、年10数件、継続

## ⑤ 留学

ウズベク若手官僚の日本政府国費留学（日本の大学院での修士取得）（約15人/年）、継続

ウズベク学生の日本政府国費留学（約15人/年）、継続

## （2）民間経済

### ①日本の合弁投資事業；いすゞ（バス・トラック製造）。製造が順調に拡大

2007年伊藤忠出資 2015年7月、いすゞからも出資

### ②NEC・オガワ精機等が、地上デジタルTVプロジェクト契約締結（2014年）

JBIC/NEXIローン、14年振りに供与（2015年）

### ③三菱商事・三菱重工が、大規模肥料（アンモニア・尿素）プラント建設契約締結（2015年）

★JBIC/NEXIローン供与（2015年）

## ④通常貿易

- ・ユニチャーム；ウズベキスタン最大のスーパーマーケットチェーン「カルジンカ」に、ロシア貿易商社ルートでおむつ輸出（赤ちゃんにとってのやさしい感触が好評）
- ・伊藤忠；つな缶詰（いすゞバス・トラックの部品とともに、インドネシアからシベリア鉄道ルート輸出）（品のあるおいしさ？）
- ・島津製作所；X線設備。ウズベク保健省が世銀ローンを受けて行った入札で島津が落札。約120の病院にX線設備輸出。（高性能との評価）
- ・増井；糸を扱う専門商社。ウズベキスタン産綿糸を輸入し、今治タオル等の原料として使用。（高級綿糸として評価上々）

# 日本・ウズベキスタン関係（文化交流例）

- (1) ウズベキスタン・日本人材開発センター（日本センター；UJC）  
日常的に、(i) 日本式のビジネス研修 (ii) 子供達への日本語教室  
(iii) 茶道・花道等の文化紹介を活発に展開

- (2) ① 大使館 ② 国際交流基金 (JF) ③ UJC ④ 平山郁夫キャラバンサライ

## が行った文化交流例

(日本のコンテンツ普及)

・ 日本映画祭

★日本の放送コンテンツ（TV番組）の無償供与  
カーネーション（NHK朝ドラ）など

(日本の伝統文化等紹介)

・ お茶会

・ 日本人形・浮世絵展

・ 写真展

・ 日本の書道・陶器WS

・ 浮世絵「江戸百景」（歌川広重）展

★和太鼓TAOのナボイ劇場公演

(観光分野の交流)

★ウズベキスタン航空特別チャーター便による日本人観光客  
(ワールド航空、JTB, 阪急)

—2016年春4便；約1,000人

—2017年春5便、これから夏、秋6～7便

【日本ーウズベキスタン合同お茶会】  
(2015年4月)

